

光といのち

第72号

2011年9月10日発行

発行所

真宗大谷派勝善寺

〒299-2214

千葉県南房総市二部1344

電話 0470-57-2657

FAX 0470-57-2290

Eメールino-teyy@khaki.plala.or.jp

住職 井上孝昌

法語

迷いを迷いと 知ることを、 往生という。

大島義男

慰霊と鎮魂から仏教へ

死者の霊魂を慰（なぐさ）めることを慰霊（いれい）と言います。死者の霊魂を鎮（つづ）めることを鎮魂（ちんこん）と言います。

寺の跡継ぎとして生まれ育ちながら、仏教の勉強をするまでは、慰霊と鎮魂が僧侶の仕事で、葬式や法事はその儀式であると思いついていました。

しかし、霊魂という実体があるとは思えませんでしたし、霊を慰めたり霊の祟（たた）りを無くす超能力など、私にはあるはずが無く、平然とその儀式をしている僧侶を訝（ひぶか）しく思うと同時に嫌悪してました。

ところが仕方なく入学した東京大谷専修学院で仏教（浄土真宗）を学ぶと、私が思っていたことが、まったく違っていたことが知らされました。

仏教は、生きている人間に語られた教えであり、死者の霊魂を取り扱うものではないと。

話が変わりますが、先日四人の方が当寺を突然訪ねてきました。五十代ぐらいのご夫婦と夫の母親、そしてその知り合いの

女性でした。

「あなたは、どんな方ですか」と、その女性に聞くと、恐山のイタコのような者です」と、言っていました。

イタコは、亡き方の霊魂を呼び寄せ亡き方の意志や気持ち（喋（わやべ）る（口寄（くちよ）せ）をして生業（なりわい）とする霊媒者（呪術者）です。

当寺を訪れた理由は、ご夫婦の奥様の心身の具合が悪く、どの医者にもその原因がわからない。そこでこの霊媒者に診てもらったところ、供養されていない女の霊魂が憑（つ）き、さみしい」と喋ったそうです。その女の霊を供養すれば奥様は良くなるだろうということで、過去帳でそれが誰かを調べてほしいとのことでした。

予定していた法事直前のことだったので、日を改めて来ていただくことにしました。

数日後に、奥様から「自分の名前を塔婆（トパーバ）に書いて供養してもらいたい。」と電話がありました。

浄土真宗では塔婆を用いないことと事情をゆっくりお聞きしたい旨をお話すると、相談して

新秋のみぎり、皆様いかがお過ごしでしょうか。

ついこの間お盆を過ごしたと思っていたら、もうお彼岸が近づいてきました。

秋のお彼岸中日（ちゅうにち）は、「秋分の日」と呼ばれる祝日です。昭和23年に「国民の祝日に関する法律」で定められました。

ちなみにその第一条には「自由と平和を求めてやまない日本国民は、美しい風習を育てつつ、よりよき社会、より豊かな生活を築きあげるために、ここに国

秋彼岸会

九月二十三日（金）

十時～十二時

ところで「先祖を敬いお亡くなりになった人々を偲（しの）ぶ」とは、どのようなことでしょうか？ お墓参りすることなのか？ お仏壇に手を合わせるものなのか？ お寺参りすることなのか？

彼岸会では、そのことについて、ご一緒に尋ねたいと思っています。

どうぞお参りください。

みます。」と答えました。しかし返事はまだありません。

心身の不調が長く続き医者にも原因がわからない。誰でもそんな時には、そこから早く抜け出そうとして、溺れる者は藁をもつかむ」ような心境になってしまふこともあると思います。

ですからこのことは、他人事ではありません。

今号の法語に「迷いを迷いと知ることを、往生という。」を掲げました。この「往生」は、死ぬことではありません。生き方が定まることです。

自分の「思い」に迷わされていたのだと気づくと、状況は何も変わっていないのに、現実が受けとめられるという意味です。

私たちは、自分の「思い」の中に、何でもおさめてしまおうと四苦八苦してますが、そこに気づくと心が開かれ苦悩が消えます。自分の「思い」にこだわることが破れたからです。これが仏教の救いです。

仏教は、個人的な慰めや癒しではありません。生きとし生けるものを等しく救う教えです。

心が開かれる仏法聴聞の場

真宗大谷派では、七月一日から新しい年度に入ります。

皆様とご一緒に聴聞したく、聞法の間のご案内します。

ぜひ足をお運びください。

勝善寺報恩講

親鸞聖人の教えにより浄土真宗に出遇えた喜びを感謝し伝えていく、私たち真宗門徒にとって最も重要な法要です。

報恩講は、ご門徒が主催しご門徒が運営します。

本年の当番地区は、二部上と中です。お世話人から仕事の依頼がありますので、ご協力をお願いいたします。

十月十六日 日 世話人総会
十一月十日 木 仏具お磨き
十一月十八日 金 準備と速夜
十一月十九日 土 十時三十分

勝善寺法要

秋彼岸会 九月二十三日 金
修正会 一月二日 月
春彼岸会 三月二十日 火
盂蘭盆会 八月十日 金

勝善寺同朋の会

※いずれも十時から十二時
十月九日 お茶の会
十二月十一日
二月十二日

四月八日 花まつり

五月十三日

六月十日

七月八日

※法要の無い月の第二日曜日
時間 十五時〜十七時半

参加費 五百円

千葉組親鸞教室

『正信偈』に「尋ねる」というテーマで、横須賀市長願寺住職の海法龍先生に、お話ししていただいています。

時間 午後一時から四時

参加費 千円

実施日と会場

第一回 十月十一日 火 千葉市浄願寺

第二回 十二月一日 木 野田市明浄寺

第三回 一月十七日 火 柏市浄眞寺

第四回 二月十四日 火 市川市即随寺

第五回 三月十二日 月 千葉市大願寺

第六回 四月十八日 水 船橋市法音寺

第七回 五月十七日 水 南房総市勝善寺

第八回 六月十八日 月 千葉市浄願寺

※住職がご一緒にします。

千葉組 婦人研修会

女性を対象にした聞法会です。

岐阜県高山市不遠寺住職の四衛亮（よつづじあきら）先生に、

親鸞聖人の歩みに学ぶお話をさせていただきます。

時間 午後一時半から四時

参加費 五百円

実施日

第一回 十二月九日 金

第二回 六月十五日 金

会場 市川市即随寺

※坊守がご一緒にします。

参加を希望する方は、ご連絡

ください。詳しくご案内します。

この他に『尹ンガ』や『同朋

新聞』にも、様々な聞法会が案内

内されています。ご参加下さい。



本堂の北側の池に咲いた茶碗蓮です。増田征夫さんからいただきました。八月十七日撮影